

すべての子どもが夢中になり、学びがある授業を目指して
～「主体的・対話的で深い学び」の実現～

毎日の授業で、2つの課題を同時に解決します！

心の教育

学力の向上

【授業で「つながり」をつくる】

- ・聴き合う関係づくり
- ・互いを尊重し、「わからない」が言える授業づくり
- 【共に支え合う生活集団の育成】
- ・お互いに支え合う関係づくり
- ⇒安心感・居場所のある教室づくり

【一人一人の学びを保障する】

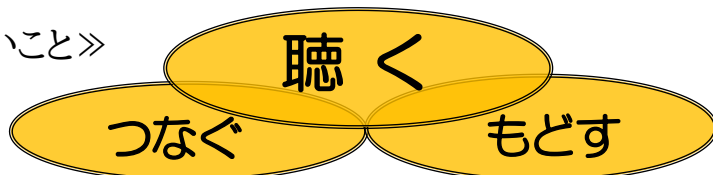
- ・子どもが「主体的」になる授業づくり
- ・すべての子どもが学びに向かう課題づくり
- 【共に学び合う学習集団の育成】
- ・活動・対話のある協働的な学び
- ⇒「深い学び」の醸成

「生きる力」の育成・・・資質・能力：「学びに向かう力・人間性等」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」

不登校やいじめなどの未然防止

「確かな学力」の育成

《大切にしてほしいこと》



子どもの深い理解（一人一人のことをよく知る）

子どもをひとりぼっちにしない「学び」づくり

【安心できる学習環境づくり】

- ◎聴き合う関係づくり・・・教師も子どもも「聴くこと」を大切にする
- ・座席の工夫・・・わからないことを安心して聴くことができる
- 小学1、2年：「ペア」「コの字」 小学3年～中学3年：「ペアが基本のグループ」
- ・声のトーン・・・静かで落ち着いた声量（子どもの「つぶやき」を大切に）

【教材研究】

- ◎単元全体を見通す（どんなことを学ばせたいか）
- ・課題の工夫（本質に迫る課題：共有の課題・ジャンプの課題）
- 共有の課題・・・単元・本時のねらいに迫る基礎的な課題（学級全員が達成できるレベル）
- ジャンプの課題・・・発展的で解く価値のある問題（深く思考をしないと解けないくらい高いレベル）

【授業場面】

- ◎子どもの思いや考え、「わからなさ」を大切にする
- ①導入の工夫・・・早い段階で課題に入る（目安は5分以内）
- ②教師の役割・・・学びが深まるようなつなぎ役（説明し過ぎず、子どもの発言を活かすなど）
- ➡子ども一人一人の表情をよく観て、学びが成立していない個人・ペア・グループを支援する
- ➡「聴く」－「つなぐ」－「戻す」（前の発言へ、ペア・グループへ、教材へ）※教師はリボイスを多くしない
- ③「足場かけ」・・・学びが一步踏み出せるような「足場」をかけ、子どもの学びを持続・活性化する
- 例：「わからなさの共有」「わかることの共有」「教師のヒント」等

《教師の同僚性》

- ・経験や立場を超えて相談できる関係づくり（授業づくり、学級経営等）
- ・授業を見合い、学び合うことでお互いを高め合う関係づくり

